

1. 科目名 (単位数)	福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) (2単位)	3. 科目番号	PSMP5218
2. 授業担当教員	中里 克治		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	障害は先天性や発達障害をふくむが、障害の受傷は中年期以降急激に増加し、高齢期では人口のかなりの割合が障害をもつようになる。そこで、先天性や早期に発生した障害をもつ子どもたちの理解と支援を最初に学ぶ。ついで、成人期とりわけ高齢期の障害とそれに対する援助を学んでゆく。		
8. 学習目標	障害について基本的な知識を学び、援助の方法を身につける。障害の分類と理念とについて学ぶ。次いで、脳・神経系の機能と、その障害について十分な知識を身につける。さらに、各種障害の特性とその心理について課題研究を中心に学習する。さらに障害児・者と、彼らを取り巻く周囲の人々の心理を考え、その支援について、臨床心理学の立場からの学習を深め、実践研究を取り上げる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート 課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】中村義行・大石史博編『障害臨床学ハンドブック』第2版 ナカニシヤ出版。 下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 障害について基本的な知識を学び、援助の方法を身につけているか。脳・神経系の機能と、その障害について十分な知識を身につけたか。本人だけでなく、家族や環境とのかかわりについても理解できているか。 ○評定の方法 課題研究・課題発表 40% レポート 40% (通信教育はレポート 100%) 授業への参加意欲・態度 20%		
12. 受講生への メッセージ	統合教育や障害者自立支援法は、理念としては障害を個性と考える立場に立つように見えるが、実際には障害特性や個性に対して十分な配慮がされていない。欧米諸国などの研究や経験を十分に取り入れて、それを日本の社会に適した形にして生かしてゆく努力、また、臨床経験を互いに共有する努力が今必要とされている。		
13. オフィスアワー	必要に応じて個別にアポイント		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	障害とは何か		
	【学習の目標】 障害の概念について理解する。 【学習の内容】 障害の理念と分類について学ぶ。 【キーワード】 WHO、国連の「障害者の権利宣言」、日本の「障害者基本法」の障害についての理念を理解する。 ICIDH, ICF などの分類を学ぶ。 【学習の課題】 障害を定義、考え方から理解する。 【参考文献】 ICD-10、DSM-5、障害者福祉法 【学習する上での留意点】 多くの資料から検討する。		
2. テーマ	知的障害		
	【学習の目標】 知的障害者とはどういう人かを知る。 【学習の内容】 知的障害の定義、原因について学ぶ。 知的障害をもつ人の心理的特徴と今までの臨床実践と研究について学ぶ。 【キーワード】 AAID, Normalization、ダウン症 【学習の課題】 知的障害児・者の福祉、教育における実践報告を調べる。 【学習する上での留意点】 貧困も原因となっている。		
3. テーマ	自閉症スペクトラム障害		
	【学習の目標】 自閉症者とはどういう人かを知る。 【学習の内容】 自閉症スペクトラム障害の定義、原因について学ぶ。 自閉症スペクトラム障害をもつ人の心理的特徴と今までの臨床実践と研究について学ぶ。 【キーワード】 自閉症スペクトラム障害、TEACCH プログラム 【学習の課題】 自閉症スペクトラム障害児・者の福祉、教育における実践報告を調べる。 【学習する上での留意点】 他の障害との合併にも注目すること。		
4. テーマ	多動性障害と学習障害		
	【学習の目標】 多動性障害と学習障害などについて学ぶ。これらの障害を持った人のことは未解決の問題が多いが、実践報告は少なくない。論文・報告を読み、発表と討議を行う。 【学習の内容】 学習障害と多動性障害の症状、診断、治療的アプローチ 【キーワード】 DSM-5、学習障害、注意欠陥/多動性障害 【学習の課題】 多動性障害と学習障害の臨床事例報告を読む。 【学習する上での留意点】 薬物療法の意味についても学ぶ。		
5. テーマ	運動障害と重複障害		
	【学習の目標】 運動障害は肢体不自由ともいい、身体障害の代表的なものである。運動障害児・者の世界を理解し、その支援法を学ぶ。 【学習の内容】 運動障害はさまざまな原因から生じる。子どもでは脳性まひ、中年期と老年期では怪我と脳血管障害である。それぞれにどのような特徴を持つかを学習する。 【キーワード】 脳性まひ、肢体欠損、脳血管障害 【学習の課題】 ライフステージ毎の運動障害の発生と問題点を調べる。		

6 . テーマ	言語障害・高次脳機能障害
【学習の目標】	言語障害・高次脳機能障害とはどのようなものかについて学ぶ。
【学習の内容】	2つとも中年期以降に増加するが、言語障害は子供にも認められ、その場合発達と絡めた対応が必要となる。それぞれにどのような特徴を持つかを学習する。
【キーワード】	言語障害、失語症、高次脳機能障害、若年性認知症
【学習の課題】	言語障害・高次脳機能障害の発生と問題点を調べる。
7 . テーマ	聴覚障害・視覚障害・病弱・身体虚弱
【学習の目標】	聴覚障害・視覚障害・病弱・身体虚弱それぞれの特徴と障害に伴う心理を学ぶ。
【学習の内容】	感覚障害は情報の取り込みが難しくなる。病弱・身体虚弱は他人にはわからない面が多い。その立場になって考えてみることから理解と支援。
【キーワード】	聴覚障害、視覚障害、病弱、身体虚弱
【学習の課題】	運動障害や感覚障害などさまざまな障害が年齢が上がるにつれて増加してゆく。生涯の理解と支援を年齢との対応で学習してゆく。
8 . テーマ	情緒障害・愛着障害
【学習の目標】	情緒障害・愛着障害とそれに伴う様々な症状について学ぶ。
【学習の内容】	情緒の機能とその障害、習癖とそれに関連する症状、チック、愛着の発達その障害、児童虐待について学ぶ。
【キーワード】	情緒障害、愛着障害、チック、児童虐待
【学習の課題】	愛着の発達について、母子関係の変化としてまとめてみよう。
9 . テーマ	早期発見と早期療育
【学習の目標】	早期発見、早期療育のために何が必要かを学ぶ。
【学習の内容】	学齢期以前の障害児への対応について学ぶ。
【キーワード】	早期発見・早期療育システム、早期療育、統合保育
【学習の課題】	年齢、障害の多様化を理解し、育てにくい子どもとその保護者に対する働きかけを学ぶ。
【学習する上での留意点】	地域で実施している実際の施策を知るなど具体的な方策を考える。
10 . テーマ	中途障害の心理と支援
【学習の目標】	障害の発生は年齢が上がるにつれて、J字型に増加してゆく。ライフステージ毎の障害の受容と支援のあり方を学ぶ。
【学習の内容】	中途障害の心理の理解と支援。脊髄損傷の心理の理解と支援。
【キーワード】	障害受容、障害の告知
【学習の課題】	運動障害や感覚障害などさまざまな障害が、年齢が上がるにつれて増加してゆく。障害の理解と支援を年齢との対応で学習してゆく。
11 . テーマ	障害児・者の家族の支援
【学習の目標】	身近に障害を抱えた人がいる場合、親・きょうだいたちはどういった心理状態にいるのか、どういった支援が必要なのかを学び、実習する。
【学習の内容】	1) 障害児の親・家族の心理について、障害受容、ストレス・コーピング等について学ぶ。 2) 親・家族の支援について事例を中心に学ぶ。
【キーワード】	告知、障害受容、ライフサイクル
【学習の課題】	障害者の親のグループ、きょうだいの会、リハビリテーション
12 . テーマ	高齢期と加齢
【学習の目標】	高齢期の特徴と加齢現象を理解する。
【学習の内容】	65歳以上を高齢者とした時、老年期は非常に長い時期である。前期と後期の違い、あるいは正常加齢、病的加齢、終末低下などの観点から老年期の発達を理解する。
【キーワード】	前期高齢期、後期高齢期、正常加齢、病的加齢、終末低下
【学習の課題】	高齢期における知能とパーソナリティの正常加齢について理解する。
【参考文献】	下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
13 . テーマ	認知症の心理と支援
【学習の目標】	認知症とその支援法を学習する。
【学習の内容】	認知症
【キーワード】	アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、回想法、リアリティ・オリエンテーション
【学習の課題】	認知症のタイプによる症状や対応の仕方の違いを学ぶ。
【参考文献】	下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
14 . テーマ	死とその受容
【学習の目標】	死と死の受容について理解する。
【学習の内容】	障害は死と密接に結びついている。高齢者だけでなく、障害児もまた死を身近に感じている。死の受容について学び、どのような支援が有効であるかを考える。
【キーワード】	死の受容、ホスピス、緩和ケア、死別
【学習の課題】	子どもの死の受容について論文を調べてみよう。
【参考文献】	下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館
15 . テーマ	高齢期の適応
【学習の目標】	高齢期の適応の理論、適応の在り方について学ぶ。
【学習の内容】	活動理論と離脱理論、人格特性と加齢への適応の関係、幸福感との関係、性役割、回想と心理的適応などについて学ぶ。
【キーワード】	活動理論、離脱理論、適応タイプ、性役割、回想
【学習の課題】	パーソナリティと適応との関係について学習してゆく。
【参考文献】	下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館